

「卓越大学院プログラム」中間評価結果

| | | | |
|----------|------------------|---------------|------|
| 機関名 | 広島大学 | 整理番号 | 1813 |
| プログラム名称 | ゲノム編集先端人材育成プログラム | | |
| プログラム責任者 | 田原 栄俊 | プログラムコーディネーター | 山本 卓 |

(評価決定後公表)

| |
|---|
| <p>(総括評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。 <input checked="" type="checkbox"/> A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。 <input type="checkbox"/> B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。 <input type="checkbox"/> C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。 <input type="checkbox"/> D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。 <p>[コメント]</p> <p>大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、大学の長期ビジョンの中で4研究科へ再編、研究科等連係課程という研究科を超えた仕組みを導入している。また、OPERAやCOI-NEXTとの連携は、相互補完するものとして有効である。ゲノム編集技術を身につけた人材の育成と、技術の実応用によって研究が進展し、それが研究をドライブするという好循環が形成されつつあるように見える。</p> <p>修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、理学系、医学系と教育課程の異なる研究科に対する教育プログラムが運用され、独創力や俯瞰力等の成長に対する学生の期待も高い。多様で優秀な学生を獲得できており、HIKARU-PF、JGRADと連携して修了後の学生の成長、活躍もサポート可能としていることは評価できる。</p> <p>高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、申請時40名の担当教員を59名に増員、教育研究や学位審査の指導体制を編成している。海外の先端機関との連携は実用と研究が密接に関連しているので難しい分野だが、何らかの工夫が望まれる。また、メンターの指導や、学外からの指導、より専門性の高い講義や知財に関する講義等、学生からの要望の把握と対応への一層の努力が望まれる。</p> <p>優秀な学生の獲得については、本プログラムのイベントや広報活動、リクルートにより、これまでの3年間で入学者は増加し、優秀な学生が確保できていることは評価できる。</p> <p>世界に通用する確かな質保証システムについては、筆記試験によるアドミッション、口頭試問、ポートフォリオ（到達度評価）、学位論文に対応して、QE、FEが実施され、各種委員会によって管理されている他、教育質保証委員会、外部評価委員会によって質</p> |
|---|

保証をはかっており、評価できる。

事業の継続・発展については、補助金の減少に対して学内・学外資源を充てる計画の
確実な実行が望まれる。